幸せを考えて

弘前大学教育学部附属小学校 對 馬

ころうジョバンにが、インスカンをつけ、最可味道に受いるのかと思い、わくわくしながらこの本を読んだ。いるのかと思い、わくわくしながらこの本を読んだ。がまたたいていて、きれいな星々の中には天の川もあった。七月、キャンプに行って星を見た。数えきれないほどの星

ってきた乗客も、同じくらいかわいそうだと思った。みんな、ってきた乗客も、同じくらいかわいそうだと思った。みんな、ま人公のジョバンニが、ケンタウル祭の日、銀河鉄道に乗主人公のジョバンニが、ケンタウル祭の日、銀河鉄道に乗主人公のジョバンニが、ケンタウル祭の日、銀河鉄道に乗主人公のジョバンニが、ケンタウル祭の日、銀河鉄道に乗主人公のジョバンニが、ケンタウル祭の日、銀河鉄道に乗

死んでしまった人たちで、楽しい話の中にも生きていた時の

どの死の悲しさやさみしさの思いだろう。そして、幸せとは

對 馬 朋 笑

ったようだった。 ているという思いや、自分も会えないさみしさや苦しさを知後悔を感じるからだ。死んでしまって、大切な人を悲しませ

おたしは、死を目の当たりにした経験がない。大好きないほんでいいかわからなくて、泣くしかできないだろうとしか思していいかわからなくて、泣くしかできないだろうとしか思い。トシは早くに死んでしまい、そのころからこの物語を賢い。トシは早くに死んでしまい、そのころからこの物語を賢い。トシは早くに死んでしまい、そのころからこの物語を賢い。トシは早くに死んでしまい、そのころからこの物語を賢い。トシは早くに死んでしまい、そのころからこの物語を賢い。トシは早くに死んでしまい、そのころからこの物語を賢い。トシは早くに死んでしまい、そのころからこの物語を賢い。トシは早くに死んでしまい、そのできないたちのは、たぶん、想像できないほれが死んでしまった。

本で多くの人に知ってもらいたかったのではないかと思った。 いう賢治からのメッセージだろう。そばにいてくれた大切な 人がいなくなっても、自分らしく生きるすばらしさを、この

何だろうと考えることが、生きていくことなのではないかと

きたいと思う。物語で、同じ大きな大地をふみしめているは

ることをあきらめずにいたい。自分を見失わず、「人生」と

いう名の長い長い道のりを一歩ずつ、幸せを考えて歩んでい

人はいつか死ぬ。けれど、その「死」という駅まで、生き ずのジョバンニと一緒に。